

# 会館だより

2011年 6月号 第264号



財団法人日中友好会館

## 「会館だより」6月号の内容

### 行事案内

《日中友好後楽会》

- ・中国旅行

《日中友好会館美術館》

- ・「王宏喜・潘宝珠 - 中国画の世界展」

### 活動記録

- ・清華大学創立100年記念祝賀会に出席して
- ・「中国後楽会」の設立にむけて

### 会館行事と人の動き

#### 表紙

「王宏喜・潘宝珠 —中国画の世界展」より

『蓮<sup>はす</sup>の香<sup>か</sup>を残せる秋』

作：潘<sup>はん</sup>宝珠<sup>ほうじゅ</sup>（パン・バオジュエー）

催事の詳細は、本誌2ページの「行事案内」  
をご覧ください。

## 行事案内

### 日中友好後楽会

#### ◆ 中国旅行

今年の中国旅行は、11月11日(金)～11月17日(木)の7日間で、海南島 海口・三亚～広東省広州、開平を巡る予定です。海南島は「中国のハワイ」と呼ばれるリゾート地として有名です。また島中央部には少数民族も暮らしています。広東省開平は2007年に世界遺産に登録された村落で、華僑が残した望楼が点在しています。伝統と西洋の建築意匠が融合した建築が圧巻です。航空便の費用が確定しておりませんので、それを含めた旅行費用が決まりましたら、正式に参加者募集を始めたいと思います。いま暫くお待ち下さい。南方は11月からベストシーズンだそうです。ぜひ奮ってご参加下さい。

#### 【申込み・問合せ】

後楽会事務局 小林陽子

電話：03-3811-5305

FAX：03-3811-5263

メールアドレス: bunka@jcfc.or.jp

### 日中友好会館美術館

#### ◆ 日中友好会館主催催事

「王宏喜・潘宝珠 - 中国画の世界展」

会期：2011年6月6日(月)～6月26日(日)

\*6日は、14時からの開幕式後に開館となります。また6日15時より、王・潘夫妻による制作実演を行ないます。

時間：10時～17時

休館日：水曜日

観覧料：無料



『竹林の七賢』

作：王<sup>おう</sup>宏喜<sup>こうき</sup> (ワン・ホンシー)

6月6日(月)より、2011年度の日中友好会館主催催事第1弾「王宏喜・潘宝珠 - 中国画の世界展」がいよいよ開幕となります。

本催事では、上海の著名画家、王宏喜・潘宝珠夫妻による中国画約40点を、人物画を中心にご紹介します。

諸葛孔明や楊貴妃、孔子や老子といった、日本でもなじみ深い人物や、女流詞人・李清照など著名な文人を題材とした古典人物画から、上海万博の労働者や、天真爛漫な少女を描いた現代人物画まで、それぞれの時代を生きる人々の姿と、深く豊かな表情を通して、多彩で奥行きのある、中国画の世界をお楽しみください。

また、6日の15時から、制作実演が予定されており、作家が自ら筆を執る様子をご覧いただける、貴重な機会となっております。(お申し込みは不要です。)

皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

## 【お問合せ】

(財) 日中友好会館 文化事業部

電話：03-3815-5085

e-mail: bunka@jcfc.or.jp



『ほころびる梅』

作：潘宝珠 (パン・バオジュ)



『背中』 作：王宏喜 (ワン・ホンシー)

## 活 動 記 録

### ◆清華大学創立100年記念祝賀会に出席して 理事長 村上 立躬

昨秋来、清華大学創立100年記念祝賀会に招待するので参加して欲しいと話があった。その件で2月に清華大学教育基金会東京事務所李沢代表が来館し、招待状を持参してくれた。3月に入り、清華大学日本研究センター弁公室主任曲徳林先生与李沢先生がそろって来館し、黄金色の記念バッジを持参し、訪中を求められた。偶々、中国美術家協会と協議する用件と北京後楽会の今後について相談する用件があったので、招聘に応ずることとした。

4月23日7:40に羽田空港に到着、出発ロビーで鈴木繁留学生事業部長、周曉光次長と待ち合わせてチェックインし、略定刻9:00に離陸した。進行方向右側の二列目窓際の席だったが、朝鮮半島を過ぎるあたりから雲が切れて景色が眺められた。

定刻12:20到北京に到着し、出口にボランティアの龍莉英嬢が出迎えに来てくれた。清華大学教育基金会の手配によるもので、気の利いた運転手蔡景森さん付の二日間自由に使える専用車を用意してくれた。13:30(現地時間)に建国飯店に着くと、なじみのコンシェルジュ王丹女史が出迎えてくれ、いつも通りお世話をしてくれた。2時間ほど休憩してから清華大学に向い、構内で開催されている「創立百周年記念」特別展を見学しようと行列の後に並んだが、本日の観覧は無理で明日の順番がとれるとのことであきらめた。構内を散策したり、校舎に入ったりしたが、シャングリラホテルでの前夜祭が19:30で時間があ

すぎるので、自動車で構内を一周してから向側の北京大学にも入り、構内を見物し、湖のまわりを徒歩で一周したり、途中でグラウンドで学生たちが種々の球技の練習するのを眺めた。野球の練習に女性が参加し、結構上手なので感心した。

シャングリラホテルには世界中からの招待客が集っていたが、日本人も80人位いるとのことであった。研究者の相互交流をしている大学の学長や企業の研究所長等が多く参加しており、私達の様な留学生宿舎の人は見かけなかった。この招聘は元寮生の清華大学関係者が特に案配してくれたように感じた。私と鈴木さんは別のテーブルで、私のテーブルは日本人は私だけで40代前半とおぼしい清華大学OBの人たちに囲まれて、やむを得ずブロークンイングリッシュで自己紹介少々会話をしていたら、テーブル付の小姐が気遣ってお皿に次々に料理をとってくれたので、食事に専念した。その内文芸が始まり、更に古い寮生達が挨拶に来てくれたので、いつしかパーティーは終わりに近付いた。鈴木さんが早めに出ないと混雑するので、終了寸前に車まで案内してくれたが、ホテル着は10時過ぎになっていささか疲れてしまった。ウィスキーソーダを2杯呑んで休んだ。

翌朝7:00に鈴木さんと待ち合わせて朝食に行った。建国飯店は、北京で30年位前に香港との合弁で始められ、当初からフランス料理のコースが楽しめ美味しいパンが売られていたこともあり、朝食も洋風がメインとなっていた。8:30に別のボランティアの姜燕楓嬢が迎えに来て、人民大会堂に向かった。入り口で招待状のチェックを受けてからセキュリティゲートをくぐって2

階の祝賀式典会場に入った。会場は1階席、2階席、3階席（主として学生）の3層で、私は1階17列69番であったが、真中から左側が奇数で右側が偶数となっており、はじめに右側に行ったので68番と70番があっても、69番がないので困っていると、中央から左側が奇数席と教えてくれた。私の列は日本人の列で、左側に日経新聞の杉田亮毅会長や創価大学の山本英夫学長、右側には日銀OBの露口洋介氏（信金中央金庫上席審議役）他の方々で、同時通訳の設備があった。学長や来賓の祝辞に続いて、最後に胡錦濤主席が約40分様々な角度から至れり尽くせりの祝賀と激励の挨拶があり、式典は終了した。それから3階に移動して祝宴が始まり、前夜と違って第17列目にいた日本人の方々とのテーブルだったのでくつろいで過ごすことができた。今回の食事は内容、サービス共に大人数の時よりも良い様に思った。陳楽平先生はじめ古い寮生や曲徳林先生はじめ旧知の中国の友人の方々が立寄りられ少しずつお話しすることができ、嬉しく思った。鈴木さんが要領良く車まで誘導してくれ正面階段を下りたところで李建保先生（元寮生。海南大学学長で留日学人活動站会長）が待ち受けていた。「村上先生の車に乗せてもらって1時間程お話ししたい」との希望だった。一緒に乗って「四川大学学長助理から海南大学教授になった李小北氏のこと」「海南大学からの後楽寮生の方々の話」「海南大学内に建設されている学術センター兼ゲストハウスの話」などをし乍ら、北京西駅の新幹線ホームを見て、前門大街の南端に着くとちょうど1時間たっていたのでお別れすることにした。私の車の後に李先生の車がついて来ていたので、

彼はその車で海南島に帰るため北京空港に向かった。私達は、前門市場街に入り天安門方向へ1km歩いた。道の中央を路面電車が運転されており、昔風に建てられた店舗（シャッターの降りた店が多い。家賃が高いのが理由とのこと）とあわせてレトロな雰囲気があった。その北端で待っていてくれた車にのってまた清華大学東門の宴銘園に向かった。百周年で各地から集まった人たちがそれぞれのサークルでパーティーを開いていたので、大変混雑していた。

元後楽寮生が約20名集まって北京後楽会の運営方針を討議しながら会食した。この集まりには、馮文化事業部長と末森さんも参加した。「幹事長に第3代の後楽寮担当中国人職員の羅民（現在、教育部考試中心弁公室主任助理）先生を推挙すること」「25年間の年代ギャップがあるので、すでに幾つかのグループがあり各々が個別に活動しグループリーダーを幹事として2-3年に1回総会を開く」「日本商工会の最近の着任者との懇談会などの接点をもつ」「在日元寮生後楽会との連携」等有意義且つ活発な議論や昔話が弾んで、李榮勝さんの要望で白酒も出て楽しい2時間半が経過してお開きとなった。9時半頃建国飯店に帰り、ウィスキーソーダを呑みながらNHKを見て、11時に休んだ。

7:00に鈴木さんと朝食をとり、部屋でNHKを見て、9:00にロビーにおりると馮部長がマイカー（VW16万K走行だが快調）で迎えに来てくれた。新しい文連のビルは大変立派で数年前に訪問した時とは様変わりでありびっくりした。中国美術家協会はその21階にあり、陶勤副秘書長は相変わらず美人だが貫禄のある雰囲気をかもし出して

いた。今回は修復を要する絵画について如何に対応するかについて意見交換することにしてた。前週に馮部長と末森さんで事前の下ならしをしてくれたので、中国美術家協会と事実関係の確認をし、解決のための方向付けについて合意が得られた。美協の陶勤さん、呂岩峰さん、蘭瑩さんと村上、馮の5人の昼食会で肩のこらない話をしながら楽しんだ。高層ビルの見晴らしの良い大変豪華な広東料理の店で、陶勤女士出身の四川の五粮液を頂いたが、馮部長が運転するので呂さんと私で白酒を頂いた。その後、梅蘭芳記念館に劉占文館長を訪問し、更めて前回の展示品を見せていただいた。

一旦、建国飯店に戻り一休みしてから、今度は鈴木さんと華風賓館 7 階の特別室での中日友協の歓迎会に出席した。先方は、文遲・王驪夫妻、紀朝欽・王效賢夫妻、井頓泉常務副会長、袁敏道秘書長、王占起政治交流部長、張振興理事の 8 名で、旧知の親しい方々なので楽しい一刻を過ごすことができた。文遲夫妻、紀朝欽夫妻も茅台酒で乾杯に応じて下さった。特に紀先生は昨年秋お会いした時、体調が良くなかったのでお会いできないかと心配していたが、今回も私の右隣に座っておられたので第 2 代中国代表理事在任当時の昔話に花を咲かせることができた。因みに華風賓館はエレベーターが 6 階までしかなく、文遲・紀朝欽両先生とも 7 階への階段は大分きつそうで申し訳なく思った。

1 階において中日友協の皆様にお別れの挨拶をしていると前日面会を約していた李贇東女士（北京農業大学教授。留日学人活動站副会長。佐渡でトキを人工繁殖させた才色兼備の有名人）が車を用意して待機し

ていたので、建国飯店でおしゃべりをする事になった。建国飯店に着くとお嬢さんの阜美ちゃん（大学院生。私は彼女が幼女の時から旧知）がお待ちかねで、レストランに入り一緒にテーブルに合流した。李女士が北京市と環境問題や都市計画に係って諸問題に取り組んでいることや阜美ちゃんの今後の進路についてなど話が尽きなかったが、10 時半をすぎたので別れを惜しみつつ散会した。

いつも通り 7:00 に朝食。9 時に馮部長のマイカーで市内見物。馮部長の運転は、タクシー顔負けの機敏且つ緩急自在の安全運転で本当に感心した。昼食是北京飯店貴賓楼で文化部元副部長劉徳有夫妻のお心尽くしの歓迎宴で広い部屋でゆったりした時間を過ごした。劉先生が昨年 10 月に来日された際に敦煌榆林窟の三蔵法師像の壁画について質問したことについて、専門学者の意見も徴するなど大変克明に調べた結果を詳しく説明して下さい。恐縮至極なことであり、心から厚く御礼申し上げた。

昼食の後、恭王府内の京劇の劇場を見物した。先日、梅蘭芳記念館で古い京劇劇場の写真があったので、劉占文館長に同じような劇場があれば見たいと言ったら、恭王府内のものが昔の形を止めているということで恭王府の事務局に連絡しておいてくれた。事務局の青年が案内してくれた。内部は木組みの高い天井で、舞台が観客席（四人掛けでテーブルに茶菓が供せられている）にせり出す様な配置で、観客席の後方は一段高くなっており見易いようになっている。満席で略 150 人位入れるように思えた。音響効果は良いと思われた。入場料は、茶菓付で 70 元と出ていた。恭王府は緑が豊

かで丁度榆の花が心地よい風で吹雪の様に散っていた。恭王府の中を散策して、来園者が大変多いと思った。馮部長の話だと年間の入場料収入が3億元を超えるらしい。

この後、郭沫若記念館を訪問し、久しぶりに郭平英館長にお会いすることができた。前回訪問したのは2月で、梅の花が咲いている記憶があったが、今回は緑が一杯で、さらに色とりどりの牡丹が建物に沿って植えられ、満開で思わず近寄って見たくなる程であった。加えて、長い房の藤も見事な咲き振りだった。館内見物の後、劉占文館長も参加され、什刹海の湖に面した料亭の二階で夕食をすることとなった。この界限は直進するのが難しい程の人出で賑わっている。個室の窓からは東の湖が一望でき、夕陽が沈むのを眺めながら趣向をこらした料理を頂いた。劉先生が酒を呑むため車において来た由なので、白酒をお付き合いすることとした。日が暮れはじめると湖畔を一周する電灯が一斉に点り、湖面に電灯が無数の穂先状に反射し、湖面からの涼風を受けながら幻想的な夜景を堪能した。郭沫若記念館に駐車していた馮部長の車で9時頃建国飯店に送ってもらい、帰国の荷造りを済ませた。

翌朝は6時半に朝食をしていると馮部長がマイカーで迎えに来てくれて、空港に向かった。(8:30 北京発、成田 13:05 着) 今回の北京滞在中は暑からず寒からず、晴天続きで過ごし易かった。

(北京大学教授の彭家声・張光珮夫妻とは電話で久闊を叙した。1985年当時の教育担当参事官でかなりご高齢と思うが、声はお元気そうで楽しくお話ができた。)

## ◆「中国後楽会」の設立にむけて

中国政府が正式に日本へ多くの国費留学生を派遣したのは1978年からで、会館が以降これらの留学生を受け入れて、この後楽寮を巢立っていった留学生は4千名あまりになります。多くは帰国し大学の教授、研究機関の幹部、また大学の学長にもなった寮生もおり、それぞれが中国の近代化の担い手として活躍しています。また同時に帰国せず日本の教育機関、企業に勤務し日中の友好交流の架け橋になっている寮生もいます。日本語、日本の文化を理解している寮生は、それぞれの専門分野でその特性を活かしている一方、日中(中日)友好にかける情熱は高く、彼らの存在は友好交流活動の今後の発展に大きく貢献していくものと思われま

す。会館はそのような元寮生の積極性に依拠して、北京と東京で「中国後楽会」の設立をすすめる準備をしています。4月下旬村上理事長との訪中で、北京において、元寮務室職員

の羅民(現教育部考試中心副主任)氏をはじめ10数名の元寮生と会合をもち、第2回同窓会を「中国後楽会」の名義で11月半ばに開催し、その準備の過程で会員組織を作り上げる

ところまでこぎつけました。

また一方東京では都内在住の元寮生に集まっていた

き、「日中友好会館後楽寮開設25周年祝典」行事の際に東京での「中国後楽会」の設立を告知できるよう、準備をすすめることでもとまりました。

今後は元寮生の皆さんの積極性に依拠し、会館は側面から支援を行う形でこの「中国後楽会」の成長を助けていきたいと考えています。

(留学生事業部長 鈴木)

## 会館行事と人の動き 4/1～30

### ●会館行事

4/22 ▶ 第74回理事会

### ●来館・訪問

4/ 6 ▶ 三木繁光理事訪問 (村上理事長)

4/ 7 ▶ 殷秋雄評議員、張瓏庭評議員来館 (村上理事長、武田常務理事、入江常勤参与)

4/ 8 ▶ 吉田隆司評議員来館 (村上理事長、武田常務理事、入江常勤参与)

4/14 ▶ 東京華僑総会 (張瓏庭評議員、曾徳深評議員) 訪問 (村上理事長、武田常務理事他)

4/18 ▶ 松野信也監事訪問 (武田常務理事、小島事務局長他)

▶ 竹下亘理事訪問 (武田常務理事)

4/20 ▶ 江田五月会長訪問 (谷野副会長、村上理事長、武田常務理事)

▶ 日本僑報社張景子女史来館 (村上理事長)

### ●人の動き

4/ 5 ▶ 日中学院入学式 (村上理事長、王中国代表理事)

4/15 ▶ 「現代中国の美術」富山巡回展開幕式 (村上理事長他)

4/23～27 村上理事長訪中

4/23 ▶ 清華大学創立百周年記念特別展参観

▶ 歓迎晩餐会 (於：シャングリラホテル)

4/24 ▶ 清華大学創立百周年記念歓迎式典 (於：人民大会堂)

▶ 李建保海南大学学長と懇談

▶ 北京後楽会羅民代表他と懇談会

4/25 ▶ 中国美術家協会陶勤副秘書長他と懇談昼食会

▶ 梅蘭芳記念館劉占文館長訪問

▶ 中日友協文遲夫妻、王效賢夫妻、井頓泉常務副会長他歓迎宴

▶ 李賛東北京農業大学教授との懇談会

4/26 ▶ 郭沫若記念館訪問

▶ 劉徳有元文化部副部長との昼食会 (於：北京飯店貴賓楼)

▶ 梅蘭芳記念館劉占文館長、郭平英女士との夕食会